

登録コード	A3307200	開講年度	2026					
授業科目	高冷地生物生産管理学					担当教員	鈴木 香奈子	
英文授業名	Highland and Cool Zone Agricultural Science							
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	農学部2年生	
講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ							
	【2022年度以前加わむ対象】農学に関する広い知識・技術を修得している				長野県をはじめとする日本や世界における農業の現状・問題について知り、解決策を考える力を培うこと。			
	2 0 2 6 A3 編 (24A), 2 0 2 5 A3 編 (23A), 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ							
	【2024年度以前加わむ対象】農学に関する専門的知識・技術を修得している。				長野県をはじめとする日本や世界における農業の現状・問題について知り、解決策を考える力を培うこと。			
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生							
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース							
(4)授業の概要	長野県の高冷地にある南牧村や川上村の農業に着目して、高冷地という特殊な環境下における農業について、様々な視点から講義をします。主に高冷地農業の成り立ち、特徴と問題、コールドチェーンの発展と問題、土壌保全の重要性などについて理解を深めることができるような内容とします。加えて、海外の高冷地農業システムや食糧安全保障の問題については日本とは異なるアフリカの農業も含めて紹介していきます。							
(5)授業計画	以下に講義内容を記します。 1日目：ガイダンス、高冷地の環境の特徴 高冷地農業の成り立ち 高冷地の複合農業 高冷地農業の問題 ディスカッション 2日目：キャベツ・レタスの生態・栽培 ベニバナインゲンの生態・栽培 高冷地のコールドチェーン 植物工場と第6次産業の可能性 海外の高冷地農業 ディスカッション 3日目：異なる環境における農業の問題 日本の食糧事情と将来的な問題 国外（アフリカ）の食糧事情と将来的な問題 講義全体のまとめ ディスカッション							
(6)自主学習の指針	高冷地や中山間地域の農業の現状、日本や世界の食糧の安全保障等に関連する情報を事前に調べておくことを勧めます。							
(7)成績評価の基準	主として出席回数、受講態度、特にディスカッションへの参加姿勢、期末試験の点数で評価します。課された設問に対して、的確かつ明確に講義内で説明されたキーワードを踏まえ説明できている回答が90%以上の場合「卓越している」、80%以上の場合「かなり上にある」、70%以上の場合「やや上にある」、60%以上の場合「水準のある」とする。ただし、回答の内容に教員を感心させるレベルの部分があった場合、追加加点対象となる。							
(8)事前事後学習の内容	事前に長野県の高冷地農業について、野菜生産や畜産などに関することを調べておいてください。							
(9)テストやレポートの予定	1日目～3日目まで毎日レポート提出を課します。 また最終日の15分間は講義に関するアンケートに回答するための時間とします。							
(10)成績評価の方法	○出席回数、受講態度、特にディカッションへの参加、レポート内容を確認し、総合的に評点をつけます。 評価基準は以下の通り。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある） 不可（F）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある） ・やむをえない事情を除き、出席の回数が規定に満たない場合は不受講扱いとする。							

(11)質問、相談への対応および連絡先	質問は適宜受け付けます。 鈴木香奈子 email: kanasuzu@shinshu-u.ac.jp
(12)履修上の注意	本講義は今年度が最終開催となります。再履修は今年度以降できませんので、ご注意ください。
【教科書】	特に指定しません。
【参考書】	特に指定しません。